

1. 社員総会

1) 定時社員総会

2020 年 9 月 4 日（金）－5 日（土）

on line 開催

議案

第一号議案 令和元年度 事業報告（案）

第二号議案 令和元年度 決算書（案）（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

第三号議案 令和二年度－令和三年度 理事、監事候補者について

2. 学術集会の開催

2020 年 9 月 4 日から 5 日まで、第 91 回日本動物学会大会はコロナ感染拡大を受け、on line で開催。企画シンポジウム 3 企画（16 演題）、本部企画シンポジウム（3 演題） 茗原眞路子研究助成第 1 回助成者による講演（ナリシゲシンポジウム）、関連集会 2 企画（5 演題）、口頭発表（LincBiz を利用）252 演題。参加者数 711 名（公益 1）

3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS)の刊行（第 37 巻 4 号～第 38 巻 3 号）。587 頁。（公益 1）

ZS の編集は、編集委員会委員（海外委員 2 名を含む）が行った。編集委員会は年 1 回開催（公益 1）

Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。2020 年度の出版論文数は 16 論文である。

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

web サイトを利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)

新たに ZS 及び ZL に出版された論文が対象とする動物種を調査した。

高校への無料公開、IP アドレスコントロールにより ZDW を提供。明治期に刊行された動物学雑誌、彙報論文へ JaLC との連携で DOI 付与を継続した。（公益 1）

6. 研究の表彰

・日本動物学会賞

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。本年は 2 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

飯野 雄一 (いいの ゆういち) 東京大学大学院理学系研究科・教授

受賞研究「線虫の化学物質への応答行動を制御する分子機構と神経回路機構の解明」

田中 実 (たなか みのる) 名古屋大学大学院理学研究科・教授

受賞研究「メダカを用いた生殖細胞と性決定の研究」

(公益1)

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。本年は2件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

石川 麻乃 (いしかわ あさの) 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所・助教

受賞研究「生活史の適応進化をもたらす遺伝基盤の解明」

小沼 健 (おぬま たけし) 大阪大学大学院理学研究科・助教

受賞研究「脊索動物オタマボヤを活かした発生学の展開」

(公益1)

・Zoological Science Award

【受賞論文】

Changing Leaf Geometry Provides a Refuge from a Parasitoid for a Leaf Miner

Haruka Aoyama, Issei Ohshima Zoological Science

36(1): 31–37.

Temperature Entrainment of Circadian Locomotor and Transcriptional Rhythms in the Cricket, *Gryllus bimaculatus*

Nisha N. Kannan, Yasuaki Tomiyama, Motoki Nose, Atsushi Tokuoka, Kenji Tomioka

Zoological Science 36(2): 95–104.

The First Establishment of “Hand-Pairing” Cross-Breeding Method for the Most Ancestral Wing Acquired Insect Group

Masaki Takenaka, Kazuki Sekiné, Koji Tojo

Zoological Science 36(2): 136–140.

Life Cycle of the Japanese Green Syllid, *Megasyllis nipponica* (Annelida: Syllidae): Field Collection and Establishment of Rearing System

Toru Miura, Kohei Oguchi, Mayuko Nakamura, Naoto Jimi, Sakiko Miura, Yoshinobu Hayashi, Shigeyuki Koshikawa, M. Teresa Aguado

Zoological Science 36(5): 372–379.

Xenacoelomorph-Specific Hox Peptides: Insights into the Phylogeny of Acoels, Nemertodermatids, and Xenoturbellids

Tatsuya Ueki, Asuka Arimoto, Kuni Tagawa, Noriyuki Satoh

Zoological Science 36(5): 395–401.

Redescription of *Synactinernus flavus* for the First Time after a Century and Description of *Synactinernus churaumi* sp. nov. (Cnidaria: Anthozoa: Actiniaria)

Takato Izumi, Takuma Fujii, Kensuke Yanagi, Takuo Higashiji, Toshihiko Fujita

Zoological Science 36(6): 528–538.

・ 日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に対して、OM 賞選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。(公益 1)

内田 有希 (うちだ ゆき) 奈良女子大学 研究院生活環境科学系 助教

受賞研究 「メントールによる褐色脂肪活性化に対するエストラジオール作用メカニズムの探索」

竹田 典代 (たけだ のりよ) 広島大学 大学院統合生命科学研究科 日本学術振興会 特別研究員 RPD

受賞研究 「光刺激を介したクラゲ卵成熟誘起ホルモンの同定と配偶子放出機構」

・ 成茂動物科学賞基金奨励賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審議を経て、理事会の審議により以下のように決定した。

鈴木 大地 (すずき だいち) 自然科学研究機構生命創成探究センター・日本学術振興会特別研究員 PD

受賞研究 「ヤツメウナギ視覚系の発生と神経機能の研究」

・ 川口四郎賞

海外国際会議に出席する若手研究者を対象に、川口賞を授与。学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により以下の二名に決定した。

山川隼平 (筑波大学・生命環境) 参加国際学会 : The 5th International Congress on Invertebrate Morphology (University of Vienna)

酒井祐輔 (基礎生物学研究所) 参加国際学会 : 14th International Coral Reef Symposium (Bremen, Germany)

・ 動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体とし、本学会の会員・非会員を問わない。国籍も問わない。理事で構成する委員会で審議を行う。

村上 龍男 (むらかみ たつお) 鶴岡市立加茂水族館・名誉館長
受賞タイトル「刺胞動物、有櫛動物クラゲ類の生体展示、繁殖、および教育普及活動」

・ 茗原眞路子研究奨励助成 助成者

小林 千余子 (こばやし ちよこ) 奈良県立医科大学医学科生物学教室 講師
研究課題 「淡水産マミズクラゲの性決定及び生物伝搬の謎に迫る」

杉浦 真由美 (すぎうら まゆみ) 奈良女子大学大学院自然科学系生物科学領域 准教授
研究課題 「原生生物繊毛虫における有性生殖の多様性を探る」

田所 竜介 (たどころ りゅうすけ) 岡山理科大学・工学部バイオ応用化学科 准教授
研究課題 「ヤマトヒメミミズの再生の全容解明を目指した基盤技術の創出」

8. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。(公益1)

9. 委員会の活動

(広報委員会)

- 1.学会ホームページの情報更新・管理維持を行った。
- 2.会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載し、月1回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
- 3.学会賞等の募集情報、授賞理由、要旨を学会ホームページに掲載した。
- 4.公益信託 成茂動物科学振興基金 2021年度応募要領を学会ホームページに掲載した。
- 5.茗原眞路子研究奨励助成金報告書を学会ホームページに掲載した。
- 6.学会HPの英語版を更新した。
- 7.新会長の挨拶を学会ホームページに掲載した。
- 8.書評(どうぶつおやこ図鑑)1件を学会ホームページに掲載した。
- 9.ユサコ株式会社からの「Bio One 無料トライアルの案内」の学会員へのダイレクトメール配信依頼があったため、広報理事の判断により配信を可とした。
- 10.国立国会図書館から「インターネット資料収集保存事業(WARP)」における学協会のHP収集、保存について、学会事務局宛に許諾依頼があった。広報理事、IT理事で協議を行い、許諾を了承した。

(図書委員会)

- 1.Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” の Vol 4. Animal Behaviors (仮題)、Vol 5. Endocrine Systems in Animals (仮題) の出版企画を具体化し、以降の

Volumes について委員会で検討を進め、学会員に企画を募集する計画にある。

(男女共同参画委員会)

1. 日本動物学会第91回大会（オンライン開催）において、第20回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を続けるためのコツとは～」を開催した。60名を超える参加者があり、「キャリアパス1」、「キャリアパス2」、「共働き・単身赴任」、「育児」、「介護」、「テレワーク」の5つのグループに分かれ、グループディスカッションを行った。
2. 男女共同参画学協会連絡会の会員数調査アンケートに協力した。
3. 第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2020年10月17日（土）Web会議）に4名の学会員が参加した。web上の公開のポスター発表を行うとともに、第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集に動物学会男女共同参画委員会の活動報告を掲載した。
4. 大規模アンケート「第4回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（2016年11月実施）」の日本動物学会会員データの解析を行い、報告書を作成、動物学会HPにアップロードした。

(将来計画委員会)

- 1) 男女共同参画委員会、キャリアパス小委員会との協同での活動として、日本動物学会第91回大会（オンライン開催）において、「ワークライフバランスを考える～研究を続けるためのコツとは～」を行った。2021年の米子大会においては、キャリアパス小委員会（将来計画委員会の西野委員長ならびに男女共同参画委員会の柴副委員長）主催による関連集会「動物学会員のキャリアパス～センパイの場合～」を申請しており、9月2日に開催予定。
- 2) 米子大会終了後の会員意向調査の実施に向けての準備。昨年度から計画していた「オンラインによる学会大会開催に関する意向調査」を米子大会後に行うこととした。現在意向調査の内容を詰めているところ。会員も様々なオンライン大会で経験を積み、オンライン米子大会では昨年とは異なるツールや運営も検討されており、来年度以降の大会運営や今後の学会運営にとって有益なものとする。
- 3) 「動物学会が、会員にとって、いかに魅力的で有益な学会であり続けるか、後進の育成に貢献するか」の検討。委員会の Slack を立ち上げ、まずは自由に意見をやりとりしてきた。9月の理事会に向けて提案としてまとめる予定。

(教育委員会)

今期も引き続き新型コロナウイルスの影響により、計画していた教育活動支援が実施できなかったが、各支部でオンラインなどを利用して少しずつ活動を再開した。各支部教育委員に今期における活動を、1)高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について、2)高校で実施している動物実験や遺伝子組み換え実験に関する教育訓練について、の二点を中心に報告してもらった。詳細は以下の通り。

<北海道支部>

- 1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について

・ 支部大会への高校生参加

動物学会北海道支部大会において中高生の発表の時間（高等発表およびポスター発表）を設けている。令和3年3月20日の北海道支部大会はコロナ禍のためオンライン開催されたが、札幌、函館および旭川の5高校9演題の高校生の発表を得た。

・ 個々の動物学会員の中高等学校への関わり

昨年度は、コロナ禍のため派遣講座や研究室訪問、SSH 指定高校への指導などの多くがキャンセルされた。本年度は、コロナ禍の状況にもよるが、引き続き個々の会員と各中高校との連携を繋げていく。

<東北支部>

1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について

東北支部大会（8月福島）にて、一般演題とともに高校生の発表をポスターで行うことを決定（3月）。2021年度 動物学フォトコンテスト募集ポスターを作成し、各支部委員に配布（3月）。近年配布している山形県米沢市の小学校、学童等に配布（掲示依頼）（5月）。

2) 高校で実施している動物実験や遺伝子組み換え実験に関する教育訓練について
直接的な高校への問い合わせができておらず、不明。以下参考：

・ SPP に参加の高校の取り組み（高等学校生物系（実施報告書） SPP ～サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト～ (jst.go.jp)）から、福島県松韻学園福島高等学校での日本の生命科学技術と“命”についての授業が行われており、研究倫理についての学習はあるようだ。

・ また、SPP での取り組みや東北支部大会での近年の高校生の発表課題から、動物実験教育訓練を必要としない動物を研究材料にしているケースが多い。

・ 遺伝子組み換え教育訓練は必要な課題（プラスミドを用いた実験など）もあるが、教育訓練を実施したかは不明。

<関東支部>

1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について

2021年3月14日(土) に実施された関東支部大会（オンライン開催）の 第二部（13:00-15:00）オンラインポスター発表において、高校生30名の参加があり、8件の高校生によるポスター発表があった。

<中部支部>

1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について

中部支部の教育活動の一環として、公益社団法人 日本動物学会中部支部公開講演会「今！キンギョがおもしろい」を2021年3月に、成瀬清（基礎生物学研究所）先生と阿部秀樹（名古屋大学）先生の企画でオンラインで開催した。本講演会は Zoom（事前登録要・質問可）と YouTube（事前登録不要・視聴のみ）の同時配信した。

日時：2021年3月6日（土）13:00～15:00

対象：一般・高校生・中学生

<近畿支部>

1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について

2020年11月7日に開催された動物学会近畿支部秋季公開講演会の終了後、高校生オンライン研究発表会を実施した（対面とオンラインのハイブリッド形式）。発表演題数は11演題で、発表は全てzoomによるオンライン開催とした。また、優秀な研究発表に対して表彰を行った。

<中四国支部>

- 1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について
・ 例年、5月半ばに支部大会に合わせて高校生ポスター発表会を実施しているが、今年はコロナウィルス感染拡大のため、支部大会が6月に延期になった。6月の支部大会はオンラインで開催し、その際、オンライン形式で高校生ポスター発表会を開催の予定。
・ 古野伸明・中島圭介 会員による広島大学附属福山中・高等学校における講演と実験（2021年2月20日 実施）
- 2) 高校で実施している動物実験や遺伝子組み換え実験に関する教育訓練について調査は実施していない。

<九州支部>

- 1) 高校生研究発表等の促進、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動について
2021年5月22日に沖縄例会を開催し、支部ホームページ上で高校生へ告知した。
- 2) 高校で実施している動物実験や遺伝子組み換え実験に関する教育訓練について個別に長崎県内の高校の生物担当の教員に聞き取りを行い、調査を継続している。

(国際交流委員会)

国際交流委員会主催の第2回動物学国際交流シンポジウム・国際交流セミナーは米子大会開催にむけて準備を行ってきた。国際交流シンポジウムは第1回同様の公募シンポジウム（英語使用）、国際交流セミナーは最大5時間をとれるサテライトシンポジウムをもちいて島根大学エスチュアリー研究センター大根島分室にて外国人教員と留学生交流会を企画した。しかし、新型コロナウイルスの国内外の状況を受けて、準備委員会と検討した。準備委員会が感染対策を考慮し、対面の懇親会とエクスカージョン（バスツアー）を中止したのを受けて、対面での交流を重視する国際交流イベントも同様の対策とし、米子大会大会では実施しないこととした。引き続き、次年度開催に向けて議論を開始した。次年度も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮しながら、第2回動物学国際交流シンポジウムを議論していく予定である。

(IT委員会)

- 1) オンライン大会開催時に大会実行委員会・IT委員会合同で、これまでの大会において整備してきた参加登録システム、演題登録システム、ならびにオンライン大会の開催に使用したシステムの使い勝手や、オンライン大会になって参加者が感じたことに関するアンケートを実施し、その解析結果を公開した。
- 2) 執行部からの要請に基づき、英語版HP改修についての意見を答申した。

- 3) 92 回大会の参加・演題登録システムの整備を行い、大会準備委員会に運用を移管した。
- 4) オンラインで開催される第 92 回年次大会のシステムについて、昨年度使用した LincBiz から、より参加者間のコミュニケーションをとりやすいシステムとして Gather.town を活用する方針を大会準備委員会に提言し、また一般会員にオンライン大会で使用する環境を事前体験してもらうためのデモスペースを準備・公開した。
- 5) 動物学会 web サイトについてシステム管理を行い、「今後のイベント」機能を初めとする機能導入や保守作業を行った。

(ZDW委員会)

論文検索・閲覧ウェブサイト ZooDiversity Web (ZDW)について、Zoom 会議・メール会議を行い、以下の問題について審議・対応を行った。データベースや書誌情報の作成作業については嶋田会員に委託し、DOI の付与に関わる手続きや検索システムを担当するダイナックス社との折衝は永井事務局長が対応した。

- 1) ZDW について不具合の点検と改善を進めた。検索システムとデータ形式に齟齬があり、システムを担当するダイナックス社と協議して解決にあたった。
- 2) 動物学雑誌、動物学彙報を ZDW に収録するための工程について、特に書誌情報に不正確な点がある問題についての対応を審議した。書誌情報については点検・修正業務を嶋田会員に委託し、第 5 回理事会 (20210612)で同作業の謝金支払の承認を受けた。
- 3) Zoological Science (ZS)に掲載される論文について、動物名および証拠標本の情報を ZDW データベースに登録し、検索対象論文の逐次更新を行った。
- 4) 動物学雑誌、動物学彙報の書誌情報の点検と修正を行った。
- 5) ZDW の紹介動画について、日本語版に続いて英語版を作成した。ZDW 委員会で Google のアカウントを取得し、Google Site を利用したサ ZDW の広報に利用する準備を進めた。

(寄付委員会)

1) 寄付募集に関する動物学会 HP の改訂等について理事会で提議し、会長、事務局、庶務担当理事と協議を進め、さらに寄付委員会で検討した。この結果、動物学会ホームページ・トップから寄付申込みに進むスキームの変更を決め、IT 委員会に依頼して WEB を改訂した (2021 年 2 月)。

・学会 HP トップの 2 か所にある「ご寄付のお願い」を 1 か所に整理し、寄付へのリンクを移動した。

・会長メッセージをリニューアル (発信者を岡 (前) 会長から稲葉 (現) 会長へ変更) し、非会員一般向けにも留意した内容へ変更した。

・国際動物学会議を用途とする寄付の用途指定項目を削除した。

2) 2021 年 6 月末までの寄附件数は、83 件であり、前年度は 130 件であったので、直近 2 年の平均は税控除団体認定要件となる 100 件を満たした (事務局より 2021 年 7 月報告受領)。

3) 大場方子 (おおばまさこ) 様から次年度以降 10 年分としてあらたに 1 千万のご寄付があり、OM 賞授与に加えて女性研究者支援を実現させる有効な用途について、本部、諸委員

会と検討開始した。

(会長報告)

- ・第1回理事会を2020年8月13日に開催した。
- ・第2回理事会を年次大会開催に合わせ2020年9月3日に開催した。
- ・2020年度社員総会を9月4日に開催した。引き続き、第3回理事会を開催し、次期会長、副会長、理事会メンバーと役割分担が決定された。
- ・東レ科学振興会への候補者推薦、井上科学財団の学会推薦審査を行なった。
- ・日本学術振興会科研費「国際情報発信強化」の代表者変更を行なった。
- ・政府による学術会議会員候補者の任命拒否に関して、生物科学学会連合からの要請に対し、理事メンバーの承認をとりつつ対応した。
- ・新理事メンバーの顔合わせならびに理事連絡会を10月6日に開催した。
- ・フォトコンテストの企画、東北支部長及び関係者と連絡、各支部長からの意見の取りまとめを行った。
- ・OM賞前選考委員長と賞の趣旨、選考について打合わせした。
- ・会長の挨拶をホームページに掲載した。
- ・OM賞、茗原眞路子研究奨励助成の選考にかかる内規案の作成を行なった。
- ・職務の効率化のため、広報・IT担当の指名理事の役割分担を設けた。
- ・各種学会連合への動物学会代表を確定した。
- ・米子年次大会に関し、本部役員と大会準備委員会との懇談会を開催した。
- ・2020年第4回理事会を12月10日に開催した。
- ・事務局長退職に伴う次期事務局長の採用について、雇用条件等の書類作成、候補者への面接と内定を理事会で行った。採用内定承諾書の拝受を受け、10月1日付けで採用することを決定した。
- ・現事務局長の再雇用条件を本部役員で決定し、本人に提示、了承を得た。
- ・現事務局長の長年の功績に対し、特別勤続表彰状贈呈を決定した。
- ・株式会社成茂科学器械研究所の成茂光子社長を訪問し、これまでの支援と今後の成茂動物科学振興賞のあり方について会談した。
- ・本部役員、編集長、編集委員、関係理事によるZS, ZL出版に関するweb会議を開催した。また、学生と若手会員による動物学会が出版するジャーナルの将来についての討論会を開催した。
- ・賞関係について今期に内規等の整備を行なった。
- ・賞・助成審査に関して、外部委員（他学会推薦）選考委員の依頼様式、今後の推薦依頼学会リスト、外部委員、学会内委員の任期を決定した。
- ・OM賞選考委員長を任命した。OM賞選考委員推薦（支部推薦：賞担当理事）の取りまとめ、外部審査委員の選考 内規の整備を行なった。
- ・茗原研究助成に関し、審査委員長、審査委員への依頼、決定、報告書様式を作成し、HPにアップした。
- ・川口賞に関し、コロナ状況を受けての国際会議出席への助成目的の再検討、規定の見直し、内規の改正、賞金額の再検討を行った。
- ・奨励賞に関し、申請書に「応募分野」があるがわかりにくいので検討、修正を行った。
- ・Zoological Science 編集主幹の退任の希望を受け、次期編集主幹の検討、推薦、並びに

理事会での決定を行なった。

- ・学会年時大会（米子開催）についてオンサイト開催を前提に準備し、実施方法に関する会議を開催した。結果、理事会にてオンライン開催を決定し、大会実施委員会と連名で会員に通知した。
- ・共同利用・共同研究拠点認定へのサポートレター提出の理事会承認と要望機関（6件）への送付を行なった。
- ・UniBio Press への動物学会代表を選考した。
- ・科学研究費（研究成果公開促進費）2件、国際情報発信強化Bの繰越申請などの取りまとめを行なった。
- ・山田科学振興財団への助成推薦を行なった。
- ・寄付支援のお願いに関する改定版をHPに掲載した。
- ・中辻創智社研究費助成選考委員への委員推薦を行なった。
- ・学会に法人カードを導入し、使用規定等の整備を行った。
- ・国際生物学オリンピック事業に対する支援を行った。
- ・本部企画シンポジウム（成茂シンポジウム）を企画し、講演者を決定した。
- ・学会事務職員の規程（就業規則、退職給与規程）を確認した。
- ・生物科学学会連合の委員会について、動物学会代表を決定した。
- ・本部役員、事務局による会合を開催した。
- ・2020年第6回理事会を6月12日に開催した。

（副会長報告）

1. 次期事務局長の選考に際し、会長とともに候補者の面接を行った。
2. 成茂動物科学振興賞のあり方の検討に際し、歴史的経緯を踏まえ、会長に助言した。
3. 本部役員として、財団助成申請の審査を行った。
4. その他、会長、各委員会の職務を補佐した。

（庶務理事報告）

会長、副会長、会計及び事務局長と連携を図りながら動物学会の運営の補佐を行った。2021年の米子大会の開催について、COVID-19の感染状況や社会情勢の推移を見ながら本部役員・IT理事・大会実行委員会と検討した。また、賞選考に関わる方針、フォトコンテストの議案などについて、議論、草案の作成等に助力した。

（会計理事報告）

(1) 会計担当として、毎月の収支計算書を確認するとともに、事務局長の給与・賞与額の決定、法人クレジットカードの導入、事務局や委員会等が必要とする物品等の購入についての承認を行なった。

(2) 2021年6月開催の第5回理事会（オンライン）において、2021年度予算案を提案し、承認を得た。同様に、学会誌の未収金対応や、英文校閲費支払いに関する提案について説明を

行い、承認を得た。

(3)本部役員として、助成金の学会推薦審査、新事務局長の決定、米子大会等、様々な学会運営に関わる重要案件に対応し、会長・副会長をサポートした。

(賞担当理事報告)

- 1) 学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会賞の受賞者 2 名を決定した。
- 2) 学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会奨励賞の受賞者 3 名を決定した。
- 3) 学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、成茂動物科学振興賞の受賞者 1 名を決定した。
- 4) 学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、動物学教育賞の受賞者 1 名 (チーム) を決定した。
- 5) 学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、若手研究者国際会議出席補助金(川口賞)の受賞者 2 名を決定した。
- 6) OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者の 2 名を決定した。
- 7) Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、Zoological Science Award の受賞論文 5 件を決定した。
- 8) 茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、茗原眞路子研究奨励助成の受給者 3 名を決定した。

10. 支部による活動

(北海道支部)

今期、北海道支部は第 65 回北海道支部大会をオンラインで開催した。また、メール会議による 2 回の役員会、オンラインによる支部総会、および対面による支部講演会 (第 588 回) をそれぞれ開催した。

1. 北海道支部第 65 回支部大会

日時：2021 年 3 月 20 日 (土) 9:00~17:00

開催形式：Zoom によるオンライン開催

参加者：登録者 46 名

発表内容：一般発表 10 件、高校生ポスター発表 9 件

特別講演 演者：石原千晶 (北海道大学水産科学研究所)「己を知り、相手を知る：ヤドカリの評価と個体識別」

表彰：院生・ポスドクを対象とした一般発表部門の最優秀発表賞、優秀発表賞、および高校生を対象とした特別発表部門の優秀発表賞の選考と授与を行った。

オンライン開催は初めての試みであったが、スムーズに進行した。高校生ポスター発表では、事前にポスターを web サイトに掲示し、Zoom ブレークアウトルームを利用して質疑応答することにより、活発な意見交換が行われた。特別講演では、ヤドカ리를対象と

した興味深い行動学研究が展開された。なお、大会プログラムは、北海道支部のホームページに掲載した。

2. 支部役員会

・第1回支部役員会

2020年10月22日（木）メールでの支部幹事会、および11月2日（月）メールでの支部役員会を実施した。議題として、

- 1) 2020年度の北海道支部大会について
- 2) 支部HPの新システムへの移行について
- 3) フォトコンテストについて
- 4) 本部の各種委員会委員について

を挙げた。議題1)については後にオンライン開催にすることを決定、議題2)については検討中、議題3)については理事長にコメントを提出し、議題4)については本部に問い合せて構成員の再確認を行った。

・第2回支部役員会

2021年3月3日（水）メールでの支部役員会を実施した。例年、この時期の支部役員会は支部大会当日の昼休みに対面で行っていたが、今期の支部大会はオンライン開催になったため、大会前にメール会議として行った。

- 1) 2020年度の事業中間報告について（資料使用）
- 2) 2020年度の会計中間報告について（資料使用）
- 3) 第65回支部大会の準備状況について

を報告し、確認された。

3. 支部総会

第65回支部大会中に支部総会を開催した。議題・報告事項として、今期の庶務報告と会計報告を挙げた。特に異論などの意見が出ることはなかった。

4. 支部講演会

第588回支部講演会

日時：2020年10月22日（木）15:00～

場所：北海道大学 理学部5号館8階 5-813室

演題：ヤツメウナギの段階的視覚形成から探る、脊椎動物の像形成視と視覚意識の起源

演者：鈴木大地 先生（自然科学研究機構 生命創成探求センター）

（東北支部）

1) 東北支部役員会

開催日：2020年7月14日（火） ※Zoomによるオンライン開催

<議題>

- ・理事会報告

- ・令和元年度決算報告・令和2年度予算計画
- ・令和2年度東北支部事業計画について
- ・フォトコンテスト開催について
- ・令和2年度東北支部総会の開催について
- ・次期支部大会開催地について
- ・支部役員（秋田地区支部委員）の委嘱について
- ・2022年度本大会（東北）の開催について
- ・ホームページの改定について

2) フォトコンテスト

締切日：2020年11月12日（木）

応募数：15作品

受賞：最優秀賞 1作品、優秀賞 3作品

3) 2020年度東北支部大会

開催日：2020年12月6日（日） ※Zoomによるオンライン開催

演題数：口演 17題

参加者数：55名（うち、動物学会会員 44名）

4) 高校生による科学研究発表

開催日：2020年12月6日（日） ※Zoom と YouTube 動画による発表を併用

演題数：口演 8題、動画発表 10題、計 18題

参加校数：6校

5) 東北支部役員会

開催日：2020年12月6日（日） ※Zoomによるオンライン開催

<議題>

- ・理事会報告
- ・フォトコンテスト審査結果
- ・支部役員（秋田地区支部委員）の委嘱について
- ・フォトコンテスト開催について
- ・2023年度本大会（東北）の開催について
- ・ホームページの改定について

6) 東北支部総会

開催日：2020年12月6日（日） ※Zoomによるオンライン開催

- ・支部長挨拶・支部大会大会長挨拶

<報告>

- ・理事会報告
- ・会計報告

- ・庶務報告
- ・フォトコンテスト審査結果
- <審議事項>
- ・次期支部大会開催地について
- ・その他

7) 東北支部役員会

開催日：2021年3月19日（金） ※電子メールによる協議

<議題>

- ・2021年度東北支部大会および東北支部総会について
- ・2021年度親子で楽しむ動物学について

(関東支部)

1.公開講演会の開催

2020年8月23日 13:30~16:30 に公開講演会「動物界にみられる生殖の多様性」をオンライン開催した。

2.支部委員会の開催

- ・第一回支部委員会：2021年8月24日 12:00-13:00 (Zoom 会議)
- ・第二回支部委員会：2021年2月25日（木） 13:00-14:00 (Zoom 会議)

3.支部役員の決定

2020-2022年 支部役員および担当を以下の通り決定した。

支部長：深津武馬

支部委員：入江直樹（庶務）、二橋亮（会計）、道上達男（広報）、川口眞理（企画・書記）、三浦徹、谷口俊介

支部選出理事：稲葉一男、深津武馬、兵藤晋、加藤尚志、神田真司、蟻川謙太郎、吉田薫、沓掛磨也子、柴小菊

支部代表委員：規定により今回は欠員(有権者数と理事の数により0となった)

支部特任委員：山元孝佳（広報）、鈴木郁夫（広報）、馬谷千恵（企画）

4.フォトコンテストに関する意見聴取

11月初旬にメールによる意見聴取を行い、取りまとめて会長に報告した。

5.関東支部大会の開催

日時: 2021年3月14日(土) オンライン（大会長：道上達男 [東京大学]）

(中部支部)

1) 日本動物学会中部支部会議を2021年3月6日（土）に開催した。

日時：3月6日（日） 11:00-12:00

ウェブ会議

議題：

1. 令和元年度（R1年7月1日~R2年6月30日）会計報告
2. 令和2年度（R2年7月1日~R3年6月30日）会計報告（暫定）

3. 令和3年度（R3年7月1日~R4年6月30日）会計予算
4. 令和3年度および4年度中部支部大会の開催地
5. フォトコンテストについて
6. その他

2) 公益社団法人 日本動物学会中部支部公開講演会 「今！キンギョがおもしろい」を2021年3月6日（土）13時から、成瀬清（基礎生物学研究所）先生と阿部秀樹（名古屋大学）先生の企画でオンラインで開催した。本講演会はZoom（事前登録要・質問可）とYouTube（事前登録不要・視聴のみ）の同時配信した。

日時：2021年3月6日（土）13:00~15:00

対象：一般・高校生・中学生

講演：

- ・二叉に分かれた尾びれが出来るまで、太田欽也（台湾中央研究院 副研究員）
- ・キンギョのゲノムと特異な表現型の遺伝基盤、大森義裕（長浜バイオ大学 教授）

ビデオ上映：

- ・新しいキンギョ品種サクラチョウテンガンと愛知県水産試験場弥富指導所

主催：公益社団法人 日本動物学会中部支部（<http://www.zoology.or.jp/chubu/index.asp>）

後援：メダカバイオリソースプロジェクト（<https://nbrp.jp/resource/medaka/>）

企画：成瀬清（基礎生物学研究所）/阿部秀樹（名古屋大学大学院生命農学研究科）

参加者：116名（Zoom 事前登録人数）、約170人（YouTube 同時視聴者数）、659回（YouTube 動画再生回数）

当日の様子は以下の YouTube 動画にて視聴可能。

<https://www.youtube.com/watch?v=BysUjxjoxng>

キンギョというテーマは一般の方にも興味をもっていただき易かったようで、また講演していただいた太田欽也先生と大森義裕先生の講演がとてもわかりやすかったことから、参加者した方からの質問が多数あった。アンケート調査を行い、公開講演会の内容に対する意見に加えて、「今後、どのような内容の公開講演会があったらよいと思うか」という項目も設けて、今後の公開講演会の参考になる意見をいただいた。

（近畿支部）

1. 公開講演会の開催

2020年秋の講演会（講演会と高校生発表会の同時開催）

日時：2020年11月7日（土）13:30~15:45

場所：橿原市昆虫館

（1）公開講演会（13:30~14:20）

講師：佐藤 宏明 先生（奈良女子大学）

「アフリカ熱血昆虫記ー知っているようで知らないフンコロガシの話」

発表形式：対面及びオンライン

参加人数：現地（対面）18名、オンライン（遠隔）35人

（2）高校生オンライン発表会（14：30～15：45）

発表数：11 演題

発表形式：オンライン

参加人数（オンライン）：53人

2. 支部委員会の開催

- ・ 第一回支部委員会：2020年11月6日（金） 13:00～14:00（オンライン会議）
- ・ 第二回支部委員会：2021年5月8日（土） 11:00～12:10（オンライン会議）

3. 支部役員の決定

2020-2022年 支部役員および担当を以下の通り決定した。

支部長：寺北明久

支部委員：小柳光正、佐藤ゆたか、橋木修志、塚本寿夫、豊田ふみよ、西田宏記、沼田英治、久富修、古屋秀隆、山下（川野）絵美、山下 高廣

支部選出理事：寺北明久 日下部

支部代表委員：志賀向子

4. 研究発表会

日時：2021年5月8日（土）13：30～17：10

発表形式：オンライン

発表：13 演題

参加人数：43人

（中国四国支部）

1) 2020年9月：理事・支部長の交代を受け、新たに支部役員の選出を行った。新たに、以下の方々に庶務幹事と会計幹事をお願いした。

庶務：小林勇喜（広島大・院統合生命）

会計：有本飛鳥（広島大・院統合生命、臨海）

2) 2020年10月：支部HPの今後の運営とフォトコンテストについてメールによる意見聴取を行った。HPの運営については、Google Sitesなどの無料サービスを利用する案などが検討された。フォトコンテストに関する意見については、会長に報告した。

3)各県の活動

（1）岡山県：10/14(水)16:30-18：00 岡山県大会、講演会「有尾両生類の器官再生メカニズム」（岡山大学自然科学研究科・佐藤伸先生）、参加：30名

(2) 島根県：11/13 生物系コース特別セミナー（対面・オンラインハイブリッド）開催場所：島根大学、講師：徳元俊伸教授 生物科学科 大学院総合科学技術研究科理学専攻

(3) 高知県：12/12（土）開催予定だった土佐生物学会大会はコロナの影響で中止となった。

(4) 山口県：例年行っている「サイエンスワールド」という科学イベントはコロナのため中止となった。

(5) 愛媛県：例年 12 月初旬に実施している愛媛県例会は対面での実施が難しく中止にした。

(6) 広島県：例年、ポスター形式の県例会を 3 月に開催してきたが、コロナのため中止となった。

4) 支部大会（生物系三学会合同大会香川大会）

6/19（土）～20（日）にオンラインで支部大会を開催した。ポスター発表 15 演題、口頭発表 6 演題、高校生発表（動物学分野）11 演題の発表があった。若手研究者優秀発表賞を成松勇樹会員（広島大学）と榎本玲菜会員（岡山大学）の 2 名に授与した。公開講演会として「生物からみた地球の環境と歴史の縮図：中国四国地域における‘JaSPa システム’2」を開催した。オンラインの懇親会を開催した。

5) 支部役員会

支部大会に合わせて 6/19（土）にオンラインで支部役員会を開催した。以下の審議を行い、承認された。

次年度事業計画について

①次年度支部大会について

②県例会等について

次年度支部予算案について

総会の次第について

若手研究者優秀発表賞の選考について

その他

6) 支部総会

支部大会に合わせて 6/20（日）にオンラインで支部総会を開催した。以下の審議を行い、承認された。

次年度事業計画について

①次年度支部大会について

②県例会等について

次年度支部予算案について

その他

7) 第 92 回米子大会準備委員会の活動

新型コロナウイルスの影響で米子大会が 1 年延期となり、大会準備委員会で引き続き準備を進めてきた。当初はオンサイトでの開催を前提に準備を進め、4 月 21 日に大会登録サイ

トをオープンしたが、その後の感染状況を鑑み、オンライン開催に切り換えることとし、理事会の了承を得た。

大会はシンポジウムと関連集会を Zoom/Zoom Webiner（一部 Gather.town）で、ポスター発表と懇親会を Gather.town で、動物学ひろばと公開講演会をオンサイトとオンラインのハイブリッドで行うこととし、準備を進めている。

（九州支部）

1) 三学会合同鹿児島例会

2020年7月11日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

2) 三学会合同宮崎例会

2020年11月8日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

3) 三学会合同熊本例会

2020年11月14日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

4) 三学会合同佐賀例会

2020年11月14日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

5) 三学会合同長崎例会

日時：2020年12月12日（土） 13時30分～16時05分

場所：長崎大学環境科学部1階大会議室

演題数：9

参加者：29名

6) 三学会合同福岡例会

2020年12月12日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

7) 三学会合同鹿児島例会

日時：2020年12月12日（土）14時00分～15時30分

場所：鹿児島大学理学部2号館2階220講義室

演題：アフリカツメガエルの初期発生の研究

演者：坂井雅夫（鹿児島大学 名誉教授）

注：対面と ZOOM を用いたオンラインのハイブリッド形式で開催予定

参加者：45名

8) 三学会合同大分例会

2020年12月19日に予定されていた同例会は COVID-19 のため開催中止となった。

9) 熊本大学理学部主催公開実習

高校生向けの同公開実習は COVID-19 のため開催中止となった。

10) 三学会合同沖縄例会

日時：2021年5月22日（土）14:00～16:45

場所：Zoom を用いたオンライン大会

内容：

1. 日本産樹木種の種子特性の地理的分布パターンと環境要因との関係について
藤 彰矩（琉球大学・理工学研究科）
2. 福島原発事故後の放射能汚染環境下におけるカタバミ（*Oxalis corniculata*）の含有成分の変化とその食植性昆虫への影響
阪内 香（琉球大学・理工学研究科）
3. マタタビ属の性表現
山口 陽子（琉球大学・理工学研究科）
4. 沖縄県の沿岸域における海洋生物の多様性パターンと保全優先地域
塩野 貴之（琉球大学・理学部）
5. 白化したウスエダミドリイシは、いつ産卵しないと決めたのか？
武方 宏樹（琉球大学・戦略的研究プロジェクトセンター）

参加者：45名

11) 第72回日本動物学会九州支部大会

（第73回日本動物学会九州支部大会を、九州沖縄植物学会および日本生態学会九州地区会と共催し、三学会合同福岡大会2021として開催）

日時：2021年6月5日（土）～6日（日）

会場：Zoom を用いたオンライン大会

内容：

【一般講演】：11 演題

【特別講演】：1 件

「捕食から子を守る」粕谷 英一（九州大学大学院・理学研究院）

【高校生発表】：12 演題

参加者：116名（一般38名、学生32名、高校教員9名、高校生37名）

12) 日本動物学会九州支部委員会

第73回日本動物学会九州支部大会のオンライン開催のため、通信形式で開催

日時：2021年5月18日（火）～5月25日（火）

13) 日本動物学会九州支部総会

第 73 回日本動物学会九州支部大会のオンライン開催のため、通信形式で開催

日時：2021 年 6 月 1 日（火）～ 6 月 8 日（火）